

これからの100年に挑戦する「株式会社ニプロン」 工場見学と酒井社長の講演

師走となった平成22年12月1日に、ATAC第14回社長懇話会を開催しました。企業経営者20名のご参加を得て、株式会社ニプロンの阪神夢工場（尼崎市）を見学した後、酒井節雄社長より会社の生い立ちから経営理念などにわたって示唆に富んだ講演を頂きました。



工場見学

2008年に稼動した新鋭工場で、主力製品であるパソコンなどの電源装置の製造ラインを見学した。

プリント基板の機械実装工程から、セルライン方式による部品の組立て・検査工程など、パソコン用の小型電源から工業用や特注品の大型電源まで多種類の電源が作られている様子を見学することができた。



会社概況

1967年8月天神橋6丁目で酒井電技商会として産声をあげた。1970年資本金1000万円で(株)日本プロテクターとして法人化し、2001年に「(株)ニプロン」と社名を改め、現在は、資本金3億4千万円、従業員245名の中堅企業である。法人化したとき酒井社長は26歳であり、その後の社会が必須とする安定化電源装置の開発に着手され、市場化を図る事業を始められた。現在は、市場のあらゆる分野の

産業用パソコンの心臓部となる高品質ATAX電源を月当たり4万5千台製造し、国内外に供給している。

なかでも、次期商品としてグリーン市場対応のソーラーコンバータを始めとするエネルギーコンバータ等の高品質電源を多岐に亘って研究開発していることは、これからの日本が必要とする社会貢献型企業であると確信する。また、現在の50億円弱から数年後の100億円販売を計画する事業ビジョンは、日本が最も希求しているものづくりの事業会社と言えよう。



酒井社長の講演から

酒井社長の講演を聴いて、昨年報じられたノーベル賞受賞科学者が辿った道を連想した。幾たびも壁に突き当たるも、あきらめずどこまでも失敗を次の研究計画に生かして栄光へたどり着いた科学者の姿に重なって見えた。酒井社長は、信頼した大手企業とのコラボの失敗、事業の一端を委ねた人の裏切り、市場判断の見誤り等々、普通なら憎み、悲しみ、絶望に心が傾きがちになるものであるが、何れの場合もプラス思考で捉えて次段の経営判断資料にされている。社員の幸福、社会への貢献、時代の要請に応える事業ビジョン等々は、(株)ニプロンのDNAとなっている氏の起業理念が源泉であると感じた。

今回参加下さった企業経営者の皆さんも、自分の経営に資する経験談を聞かれて、明日の自社経営に活かされることと推察している。酒井社長の、まさしくこれからの企業100年の道標の講話に対して、ATACからも主催者として深く謝意を表したい。

ATACは絶えず時代が求める企業形態への探求に資する社長懇話会を企画しています。次回も多くの経営者の方々と意見交換できることを期待してお待ちしています。

(三原記)